

向、飛帆一日、到壹岐島、

〔朝野群載二十大宰府〕警固所解申請申文事

言上 新來唐船一隻子細狀

右件唐船、今日酉時筑前國那珂郡博多津志賀島前海到來者、任先例子細言上如件、以解、

長治二年八月廿日

鎰取田口吉任

本司兼監代百濟惟助

〔永久四年百首雜〕唐人

俊頼

唐人は玄かのをしまに舟出してはかたのおきに時つくる也

兼昌

うなばらやはかたの沖にかゝりたる唐舟にときつくるなり

〔梅松論下〕建武三年四月三日、太宰府を立て御進發ありし程に、太宰少貳并九國の輩、博多の津よ

り纜を解て、兩將は長門の府中に玄ばらく御逗留にて、當所より御出舟有○下

〔南海治亂記五〕豫州能島氏侵大明國記

大明ノ使鄭舜侯ト云者、博多津ニ入來ル時ニ、豊後ノ大友義鎮、西州ヲ統領スルユヘニ、日本國王

ナリトシテ、其璽書ヲ義鎮ニタテマツル、

〔海東諸國記〕筑前州

貞成

辛巳年、遣使來朝、書稱筑前州冷泉津尉兼内州大守田原藤原貞成受圖書、約歲遣三船、大友殿族

親、博多代官、

〔和漢三才圖會五十七〕湊津